

2009年7月10日  
 京都新聞

特殊な金属筒の熱伝導の様子を実験で学ぶ生徒たち  
 (京都市上京区・同志社大)



# 温度差で発電科学って面白い

上京で  
 セミナー  
 同志社中生学ぶ

国際科学技術財団(東京都)主催の「やさしい科学技術セミナー」が9日、京都市上京区の同志社大で行われた。同志社中の生徒約30人が参加し、実験などを通して、科学の面白さに触れた。

セミナーは、学生や地域住民らに理数系科目を分かりやすく解説し、興味を持ってもらう目的で1989年から全国各地で開催している。京都で初めて開催され、同志社大理工学部准教授の平山朋子さんと、名古屋大大学院

講師の長野方星さんが講師を務めた。航空宇宙工学を研究している長野さんは、熱伝導が高い特殊な2重構造の金属筒を熱湯と冷水に入れ、温度差で発電してプロペラを回す実験を行い、「金

属の構造で動力を生む仕組みを作ることが出来る。宇宙空間では衛星に利用されている」などと説明した。

生徒たちは瞬間的に熱くなったり、冷たくなる筒に驚いていた。1年の玉田岳士君(12)「右京区」は「実験は楽しく、理科を少しは好きになれそう」と話していた。(宇都寿)



JAPAN PRIZE